



KARIBIB

の回想



2023 年度 1 次隊/数学教育/渡辺 崇人

2025 年 7 月 7 日 Vol. 30

今年もこの日がやって来ました。昨年出場し (Vol.10 参照)、辛酸を嘗めた NAVACHAB HALF-MARATHON、そう町のマラソン大会です。その上写真 1 の通り、今年は創設されてから 10 周年の記念大会ということで例年より大々的に宣伝が行われ、総勢 600 名近くのランナーがこのカリビブに集結したとのこと。そのため、町中のあちらこちらのゲストハウスのスタッフから“1 週間前から満室なのよー、大変よ。”と嬉しい悲鳴を聞きました。

ただ自身がこの告知を受けたのは、エントリー必切の 1 日前。幸いにも大会関係者に知り合いがいたため、すぐに電話すると「今、エントリー作業をやってるから〇〇においで」ということで同僚と一緒に向かいました。

エントリー会場では、

スタッフ 「ようこそ。5km、10km、21.1km とどの部門で出場するの？」

自分 『21.1km で！』

スタッフ 「あなた、自分が何を言っているか分かってるの？21.1km よ？21m ではないわ。本当に大丈夫なの？練習は積んだの？」

自分 『ほとんどやってないけど、まあ何とかかなるよ(^◇^)]

スタッフ 「そう、ならいいけど、あなた正気でないわ。本番は頑張って。」

とやや冷ややかな反応でした。Vol.10 の通り、2023 年は 10km の部に挑戦し、“来年は 21.1km の部に挑戦してやろう”と 1 年がかりの計画を練って意気込んでいたのですが、配属先で行われた色々なイベントの関係で土日も出かけたり準備したりしていたところ、思うように練習が積み重なったという小学生並みの言い訳は予め申し添えておきます。ただ、異国の地アフリカで挑戦できる最後のマラソンになるかもしれないと思い、ぶっつけ本番ではありましたが 21.1km に申し込みました。もちろんこの距離を走ること自体が初めてです。会場で生徒にもたくさん会いましたが、「先生、どれに出場するの?」『21.1km だよ〜。』「本当に 😊 ! ? 頑張っ (爆)」といった感じで答える度に笑われてましたね (笑)。

QKR NAMIBIA
NAVACHAB GOLD MINE

10 YEAR ANNIVERSARY OF NAVACHAB HALF-MARATHON 2024

Join the lifestyle!

- ✓ 5 km - Adults N\$50.00
- ✓ 10 km - Adults N\$100.00
13-17 years N\$50.00
- ✓ 21.1 km - Adults N\$100.00
16-17 years N\$50.00

Saturday, 21 Sept, 2024 | 06:30 am | Karibib

Scan QR code to register

Entries close on 16, September, 2024 @23:59

Contact Bethold Karumendu: +264 (0)81 311 8489 or Mclyn Kasale: +264 (0)81 882 4371

SPONSORS

写真 1 : 大会ポスター

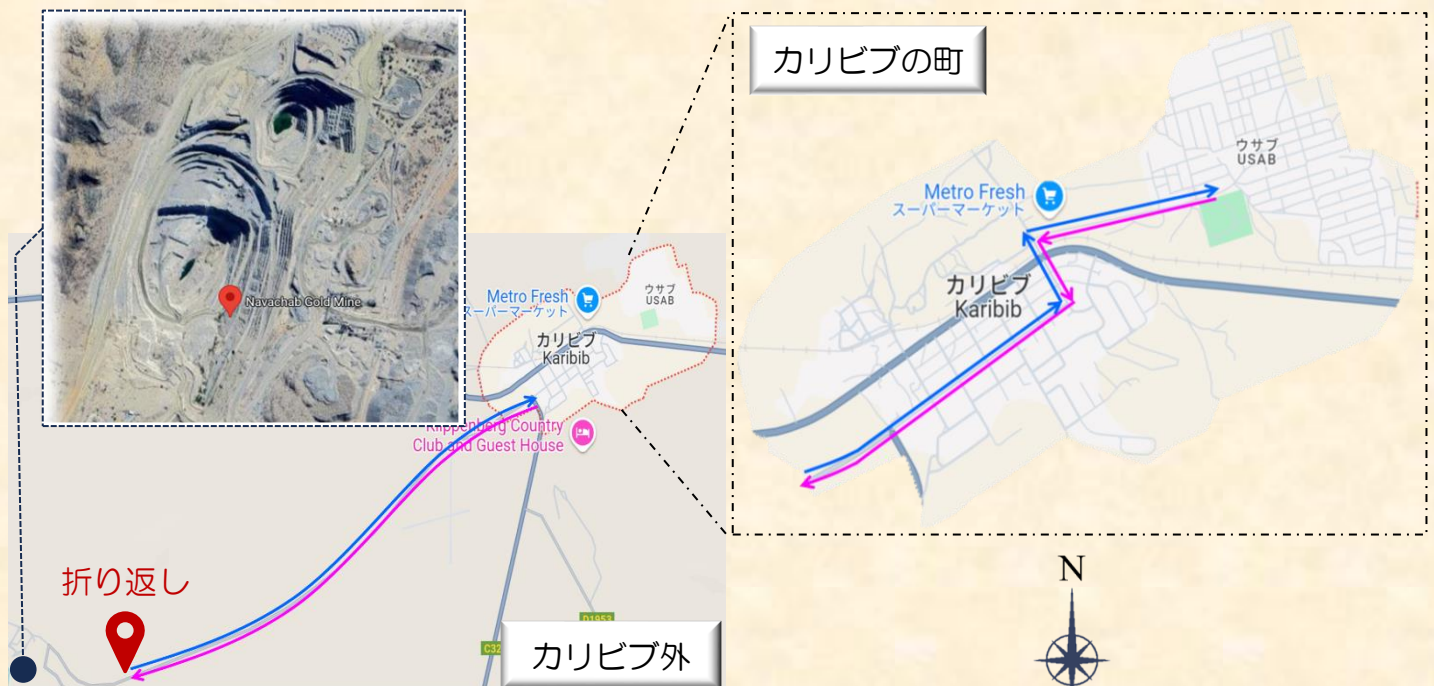


図1：往路と復路

図1は21.1kmの部の往路と復路です。昨年とほぼコースは同じものの、距離が長いだけあって、折り返し地点もだいぶ町から離れた所にあります。ちなみに、大会名にあるNAVACHABは、図1の折り返し地点よりやや南西にある鉱山を主に採掘している会社の名称で、最近業績がいいのかカリビブ内の学校に新築校舎を建造したり、スポーツフィールドを取り囲むように塀を建築したり、大きな公立病院を建築したりと様々な取り組みを行い、町の発展に寄与しています。お陰で、町はバブル到来です。発展のスピードがそれはそれは凄まじく、気付いたら新しい家が建っているような状態です。10年後には、今と全く違う風景が広がっているのでしょうか。



写真2：スタート地点



写真3：参加する同僚・生徒と

ポスターに記載の通り、出走は午前6:30。そのため辺りもまだ暗く（写真2）、暑い時間帯を避けての時間設定ですがそれにしても早い…。ただ、いつものようにアフリカンタイムで1時間程ずれるだろうなと思い、同僚に6:20に拾ってもらい、会場では香気に色々な人と写真を撮っていました（写真3）。すると、どうでしょう。どこからともなく、号砲とともに歓声が。なんと、こういう日に限って定刻通りにスタートするんですね。ということ

で、初めての距離をアップなしで走ることになってしまいました。おまけにこの日気付きましたが、この大会のために購入した陸上靴がレディース用でサイズが合わず（試し履きしたんだけどなあ。）、指を曲げないと入らないという状況下でのランニングとなり、最後の大会に相応しい、幸先の良いスタートを切れたことは今でも覚えています。ちなみに写真3の右の男子生徒はカリビブを含むエロンゴ州という州に住む同年代の中でも1・2を争うほど長距離走が速く、直前まで写真を一緒に撮っていたのに号砲直後の気付いた頃には既にその姿は見えなくなっていました。

青い空に澄んだ空気。絶好のマラソン日和ですが、開始 10 分で早速バテた自分にはそんなものを感じる余裕など微塵もありません。時間が経つほど抜かされていき、意識も薄れていきます。おまけに走るより歩く方が速いという、物理法則完全無視の状態が起きます。そうこうしている内に、何とか折り返し地点までたどり着き（写真4）“やっと残り半分か。（。´・ω・`）?まだ半分もあるのか。”と絶望に打ちひしがれながら走っていると希望の光が…。そう給水所です。しかも知人がおり「Taka、頑張れ。もうちょっとだぞ。」と飲み物を差し出してくれるではありませんか。もうこれは頑張らない訳にはいかないと、いただいた飲み物を一気に口に入れるとあら不思議、すべて口から逆流してきました。なんと水だと思って飲んだものがコーラでした。そうだね、こっちの人は好きだもんね、マラソン



中の満身創痍の男にも渡したくなるよね。ただ 写真4：折り返し地点 殺す気か！と当時は思いました。お陰で水分が足りず、代わりに一緒にもらったオレンジを搾って頭から被ったり、枯れるほど吸い続けたりし、ベトベトになった最高の状態で最後の力を振り絞ってゴールまで歩く・走るを繰り返していました。ゴール地点では同僚が待っていていましたが、その後の記憶が曖昧で連れて帰られたことだけは覚えています。

ゴール時点では既に太陽が真上に来ており（写真5）、辛さのあまりコースが家の前を通るためこっそり帰宅しようかとも考えましたが「最後だから」となんとか考え直してゴールすることができました。タイムは驚異の2時間 47 分（笑）。着順はおそらく最後から2番目でしたが、完走できて良かったです。それにしても、マラソン選手はこの倍の距離を倍の速さで走り切るのかとその凄さを実感した日になりました。それでも最後に参加できて良かったです。



写真5：ゴール地点

AFRICAN SAFARI

Vol.3

今回は一種類の BIG5（アフリカの5大動物）を紹介します。



《サイ》

写真は“シロサイ”です。別に“クロサイ”もいますが、これらは体の色で区別しているのではなく、形態・行動の違いで区別しているそうです。いずれも絶滅危惧種ですが、特にシロサイの亜種であるキタシロサイは、世界中で生存しているのがメス二匹のみだそうです。



次回：日を跨ぐ学校イベント、“MISS KJSS”（ミスコン）について紹介します！